令和元年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会
第１回稲毛区役所部会議事録

１　日時：令和元年６月２７日（水）１４：００～１６：４０

２　場所：千葉市稲毛保健福祉センター３階　ボランティア活動室１

３　出席者：

（１）委員

稲垣　總一郎委員（部会長）、長根　裕美委員（副部会長）

印南　耕次委員、藤沼　昭和委員

（２）事務局

宮尾稲毛区長、中臺地域づくり支援室長、小川主査、鵜澤主事

４　議題：

（１）部会長及び副部会長の選出について

（２）平成３０年度に指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について

ア　千葉市稲毛区穴川コミュニティセンター

イ　千葉市稲毛区長沼コミュニティセンター

５　議事概要：

（１）平成３０年度に指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について

ア　千葉市稲毛区穴川コミュニティセンター

平成３０年度に千葉市稲毛区穴川コミュニティセンターの指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について、施設所管課から説明の後、意見交換を経て、部会としての意見を取りまとめ、決定した。

イ　千葉市稲毛区長沼コミュニティセンター

平成３０年度に千葉市稲毛区長沼コミュニティセンターの指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について、施設所管課から説明の後、意見交換を経て、部会としての意見を取りまとめ、決定した。

（２）その他

議事録の公開について、事務局から説明した。

６　会議経過：

○事務局職員　　それでは、定刻を少し過ぎましたが、今年度の選定評価委員会、第１回稲毛区役所部会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより令和元年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第１回稲毛区役所部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、地域振興課地域づくり支援室の小川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、市の情報公開条例第２５条に基づいて、公開されております。ただし、一部非公開の部分がございますので、あらかじめご承知おきください。

傍聴人の方におかれましては、傍聴人要領に記載されている事項を遵守されるよう、お願いいたします。

それでは、本日は委員改選後の第１回目の会議でございますので、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

まず、稲垣總一郎委員でございます。

長根裕美委員でございます。

印南耕次委員でございます。

藤沼昭和委員でございます。

なお、西川委員におかれましては本日欠席との連絡をいただいております。

続きまして、職員をご紹介いたします。

稲毛区長の宮尾でございます。

続いて、地域振興課職員です。

地域づくり支援室長の中臺でございます。

担当の主事の鵜澤でございます。

最後に改めまして、主査の小川でございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、区長の宮尾からご挨拶申し上げます。

○宮尾稲毛区長　　開会に当たりまして、一言述べさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、稲毛区役所部会に出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆様方におかれましては、稲毛区はもとより市政全般にわたる多大なるご支援、ご協力を賜っておりますこと、この場をおかりいたしまして厚くお礼を申し上げます。

本日は稲毛区が所管しております穴川コミュニティセンターと長沼コミュニティセンターの平成３０年度における指定管理の年度評価をお願いいたしますが、委員の皆様には専門的な知識、経験を基に、両施設のサービス水準の向上、業務の効率化、改善を要する点などにつきまして、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいとお願い申し上げます。

区といたしましても、いただきましたご意見などを基に指定管理者とより連携し、住民の交流拠点としての機能をさらに強化していくよう、より一層努力をしてまいります。

本日は長時間になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局職員　　それでは、この後の進行を説明させていただきます。着座にて失礼させていただきます。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。

まず、机上にございます「諮問書」でございます。次にファイルをお開きいただき、「次第」、「席次表」、資料１が「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第１回稲毛区役所部会進行表」、資料２が「稲毛区役所部会委員名簿」、資料３が「稲毛区役所部会で審議する公の施設一覧」、資料４－１から４－６は「千葉市稲毛区穴川コミュニティセンター」

の平成３０年度評価に関する資料で、４－１が「指定管理者年度評価シート」、４－２が「指定管理者年度評価シート補足資料」、４－３が「指定管理者モニタリングレポート」、４－４が「事業計画書」、４－５が「事業報告書」、４－６が「指定管理者計算書類等」でございます。資料５は「千葉市稲毛区長沼コミュニティセンター」の平成３０年度評価に関する資料で、枝番号は先ほどと同様となっております。

ここまでよろしいでしょうか。

続きまして、参考資料１が「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」、参考資料２が「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」、参考資料３が「部会の設置について」、参考資料４が「千葉市情報公開条例・施行規則　抜粋」でございます。参考資料５が「評価の目安」でございます。参考資料６－１が「穴川コミュニティセンターに関する市民局指定管理者選定評価委員会の意見等」でございます。参考資料６－２が長沼コミュニティセンターに関する同様の資料でございます。

それから、追加で大変恐縮ですが、事前に資料をお配りしたときにも少しご説明をさせていただいておりますが、長沼コミュニティセンターの資料５－６「指定管理者計算書類等」について、長沼コミュニティセンターのＦｕｎＳｐａｃｅの平成３０年度決算書類を本日、追加資料として机上に配付させていただいております。

それからもう一つ、参考資料６－１、６－２ということで、これは昨年度、皆様に選定評価委員会時にご意見をいただいたものになりますが、こちらをつけ加えさせていただいております。

以上になります。不足等ございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、会議の成立についてご報告いたします。

本日、全委員５名のうち４名にご出席いただいており、半数以上のご出席がありますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第１１条第７項において準用する第１０条の第２項に基づき、会議は成立しております。

それでは、これより議事に入らせていただきます。

なお、部会長が決定するまでの間、区長が仮議長を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○事務局職員　　それでは、宮尾稲毛区長、議事進行をお願いいたします。

○仮議長（宮尾稲毛区長）　　ご承認いただきましたので、仮議長として会議の進行を務めさせていただきます。

それでは、議題１の「部会長及び副部会長の選出について」に入らせていただきます。

はじめに、部会長の役割といたしましては、本部会の議長を務めていただくほか、部会の招集、議事録の承認等、部会を代表していただきます。

副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、その職務を代理していただきます。

まず、部会長の選出を行いたいと思いますが、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第１１条第４項に基づき、互選により選出したいと思います。どなたか、立候補または推薦される方はいらっしゃいますか。

○藤沼委員　　稲垣先生がよろしいのではないでしょうか。
○仮議長（宮尾稲毛区長）　　ただいま、稲垣委員を部会長にと推薦をいただきましたが、ご意見等ございますか。特に意見はよろしいでしょうか。

（なし）

○仮議長（宮尾稲毛区長）　　特に意見がないようですので、稲垣委員を部会長に決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（異議なし）

○仮議長（宮尾稲毛区長）　　それでは、稲垣委員に部会長をお願いいたします。
　稲垣部会長、部会長席へお願いいたします。
　ここで稲垣部会長より、一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
○稲垣部会長　　ご推薦いただきまして、前回に続いて部会長をさせていただきます。よろしくお願いします。
○仮議長（宮尾稲毛区長）　　ありがとうございました。
　それでは、部会長が選出されましたので、ここで議長を稲垣部会長に交代させていただきます。
　私は、これで退席させていただきます。後のご審議、よろしくお願いいたします。
○稲垣部会長　　それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
　まず、副部会長の選出を行いたいと思います。
　こちらも互選により選出することとされておりますが、どなたか立候補、または推薦される方はいらっしゃいますか。
　特に推薦される方がいらっしゃらないようでしたら、私のほうから申し上げていいかわかりませんが、前回に続いて長根委員に副部会長をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○稲垣部会長　　では、長根委員に副部会長をお願いいたします。
　どうぞ、ご挨拶をお願いいたします。
○長根委員　　どうぞよろしくお願いします。
○稲垣部会長　　続きまして、議題２「指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について」に入らせていただきます。
　まず、年度評価の概要について、事務局より説明をお願いします。
○事務局職員　それでは、説明をさせていただきます。
　指定管理者選定評価委員会による、指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価の概要についてご説明いたします。
　まず、年度評価についてですが、１年間の指定管理者による管理運営を評価し、現指定期間における管理運営の改善につなげることを目的としております。このため、選定評価委員会を開催し、委員の皆様からのご意見をいただく機会を設け、次年度以降の管理運営をより適正に行うために実施するものでございます。
　次に、評価の方法でございますが、まず、市が、現地視察・ヒアリング等を通じて行っ

たモニタリングの結果や指定管理者による自己評価、指定管理者からの報告書等を踏まえて、指定管理者年度評価シート作成しております。

選定評価委員会につきましては、市で作成した「指定管理者年度評価シート」と指定管理者から提出された「事業報告書」、「計算書類等」などの資料を基に、選定評価委員会より市の評価の妥当性や当該指定管理者による施設管理運営のサービス水準の向上・業務効率化の方策、改善を要する点、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するため当該指定管理者の財務状況などに対するご意見をいただくものでございます。

最終的に、そのご意見の中から、部会としての意見を取りまとめていただき、それを部会長より選定評価委員会会長にご報告いただいた後、委員会会長より市に対し答申をしていただきます。

なお、答申でいただきましたご意見は、年度評価シート「７　総括」の「（３）市民局指定管理者選定評価委員会の意見」欄に記載いたします。

また、評価結果の取り扱いでございますが、選定評価委員会の意見を記載した年度評価シートについて、市ホームページ上で公開するとともに、指定管理者による管理運営の改善・効率化に向けた取り組みを促進するため、評価結果を当該指定管理者に通知いたします。

次に、会議資料について簡単にご説明します。

それでは、資料４－１をご覧ください。こちらは「指定管理者年度評価シート」となっております。こちらを例に挙げ、評価シートの内容についてご説明します。

評価シートは、大きく七つの項目で構成されております。まず、一つ目「公の施設の基本情報」、次に、「２　指定管理者の基本情報」では、指定管理者名や構成団体などを記載しております。次に、「３　管理運営の成果・実績」では、成果指標に係る数値目標の達成状況などを記載しております。次に、「４　収支状況」ですが、（１）の必須業務収支状況については、各費目について計画と提案の差異を示すとともに、その主な要因の記載及び（２）の自主事業収支状況についても同様に記載をさせていただいております。（３）の収支状況については、利益の還元について記載させていただいております。

「５　管理運営状況の評価」ですが、成果指標の目標達成状況を示すものでございます。（３）の履行状況については、資料４－２の昨年度から加わった補足資料とリンクしております。

この補足資料については、昨年度ご説明申し上げましたが、簡単に申し上げますと、一昨年度、一部の部会において、「モニタリングレポートの結果と年度評価シートの市の評価との関連がわかりにくい」、「平均値を記載してほしい」といった意見がございました。そういったご意見を受け、制度を所管する総務局業務改革推進課に伝えたところ、それらの内容を補足する資料の全庁的なひな形が示されましたので、昨年度から会議資料として追加しております。

続きまして、「６　利用者ニーズ・満足度等の把握」ですが、これは指定管理者が行ったアンケート調査結果等を記載しております。

最後に、「７　総括」において、（１）では指定管理者、（２）では市による５段階での総括評価を行い、（３）では選定評価委員会稲毛区役所部会の意見を記載することとなっております。

次に、委員の皆様からご意見をいただくに当たって、ポイントとなります評価についてご説明します。

参考資料５の「評価の目安」をご覧ください。「評価の目安」については、先ほどの説明の中で申し上げました「５　管理運営の状況の評価」のうち、管理運営の履行状況と７の「総括」の（１）から（２）における評価欄になります。しかし、これはあくまで目安を示すものとなりますので、総合的に判断してこれと異なる評価をすることや、選定評価委員会の本日の意見を踏まえて、修正することも可能です。

説明は、以上でございます。

○稲垣部会長　　ありがとうございます。

ただいまの事務局からのご説明について、ご質問、説明自体がわからなかったという、そういう質問でもいいですが、よろしいですか。

（なし）

○稲垣部会長　　では、次に進ませていただきます。

それでは、各施設の年度評価に移ります。

まず、千葉市稲毛区穴川コミュニティセンターの年度評価でございます。説明をお願いします。

○中臺地域づくり支援室長　　各施設の年度評価につきましては、地域づくり支援室長の中臺よりご説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、穴川コミュニティセンターの平成３０年度に指定管理者が行った施設の管理に係る年度評価について、説明させていただきます。

資料４－１の１１ページをご覧ください。「１　公の施設の基本情報」ですが、施設名称から制度導入により見込まれる効果については、記載のとおりでございます。成果指標といたしましては、指定管理者制度の効果等を測定するため、諸室における施設稼働率とスポーツ施設における施設利用者数を設定しております。数値目標でございますが、１の諸室の施設稼働率については、市が定めた最終年度の数値目標が５９％に対し、指定管理者が提案した最終年度の数値目標は５９．１％、平成３０年度の指定管理者の数値目標は５５．１％です。

２のスポーツ施設の利用者数ですが、市が定めた最終年度の数値目標２万３千人に対し指定管理者の最終年度の数値目標は同じく２万３千人、平成３０年度の指定管理者の定めた数値目標は２万１，５００人です。

次に、「２　指定管理者の基本情報」でございますが、指定管理者名は株式会社京葉美装、指定期間は平成２８年４月１日から令和３年３月３１日になります。こちらは平成と書いてありますが、令和３年３月３１日ということになります。

続いて、「３　管理運営の成果・実績」ですが、指定管理者が設定した平成３０年度の数値目標に対する達成度をパーセンテージで示しております。諸室の施設稼働率は達成率１０６．６％、その下のスポーツ施設利用者数は達成率１０１．５％です。

なお、括弧書きは市の指定した最終年度の数値目標とそれに対する平成３０年度の達成率となります。

また「（２）その他利用状況を示す指標」として設定した項目でございますが、コミュニティまつりの参加者数が２万４千人という実績になっております。また、幼児室利用者

数が２，００８人ということになっております。

次に１２ページをお願いいたします。４の「収支状況」ですが、まず、必須業務収支状況の「ア　収入」からご説明いたします。３０年度の合計の欄をご覧ください。提案の４，５１６万２千円に対し、計画は４，４５７万９千円、実績は４，４０５万１千円でございました。計画に対する実績が５２万８千円の減となった要因といたしましては、利用料金の一番高い多目的室の利用が減少したことが大きな要因となっております。

次に、「イ　支出」の３０年度の合計の欄をご覧ください。提案の４，５４７万１千円に対し、計画は４，４５７万９千円、実績は４，４６５万５千円でした。計画に対する実績が７万６千円の増となりましたが、光熱水費の抑制及び修繕費の縮減等に努めて経費削減を行いましたが、環境美化のために雇用しております常駐清掃員を１名増員し、継続雇用したことや、最低賃金の引き上げなどで人件費が増加したことが、支出の実績が計画を上回ったことの要因となっております。

次に、１３ページをお願いいたします。（２）の自主事業収支状況についてご説明いたします。自主事業は、当初予定の２７件から１８件ふえまして４５件実施しております。収入は１３８万４千円、支出は１８０万９千円で、収支決算額として４２万５千円の赤字となりました。赤字の主な要因は、コンサートや写真展など、入場無料の事業を行ったことによるものでございます。

次に、（３）の収支状況でございますが、必須業務と自主事業を合わせた総収入は４，５４３万５千円、総支出は４，６４６万４千円であり、総収支決算額として１０２万９千円の赤字となりました。

なお、千葉市稲毛区穴川コミュニティセンターの管理に関する業務協定では、余剰金が総収入額の１０％を超えた場合に利益の還元を行うこととなっており、平成３０年度は赤字決算のため、利益の還元はございません。

次に、「５　管理運営状況の評価」をご説明します。まず、「（１）管理運営による成果・実績」でございます。こちらは１１ページの３のところでご説明いたしました成果指標に対する目標達成率によりまして、「Ａ」から「Ｅ」の５段階で評価をしておりますが、施設稼働率、施設利用者数ともに市としては年度ごとの数値目標は設定していないため、選定時に指定管理者が定めた年度目標に対する達成率で評価をしております。施設稼働率は１０６．６％で、下の点線で囲まれた評価の内容におきまして、「Ｂ」に該当いたします。また、施設利用者数は１０１．５％で、「Ｃ」に該当いたします。

次に、１４ページをお願いします。「（２）市の施設管理経費縮減への寄与」でございますが、こちらは市の指定管理料支出の削減の観点から評価をしております。選定時の提案額３，４６５万５千円に対し、実績額３，３７６万３千円で、削減額は８９万２千円となります。削減率は２．５８％となり、下の点線で囲まれた評価の内容におきまして、「Ｃ」に該当いたします。

次の「（３）管理運営の履行状況」でございますが、３０年度中に２回実施いたしましたモニタリングの各項目を七つの評価項目に分類し、それぞれにおいて指定管理者による自己評価、市による評価を行っております。後ほど説明いたします資料４－２の「モニタリング結果」に基づき、点数計算した結果、市の評価はいずれの項目も「Ｃ」という評価でした。

なお、評価の「Ｃ」は１４ページ、最下部の点線で囲まれた評価の内容のとおり、おおむね管理運営の基準、事業計画等に定める水準どおりに管理運営が行われていたという評価でございます。各項目において評価した点は、特記事項欄に記載のとおりでございますが、モニタリングレポートから評価のポイントにつながるところを幾つかご説明させていただきます。

資料４－２の１９ページをご覧ください。１の市民の平等利用の確保、施設の適正管理の部分の最後になりますが、「（３）環境への配慮」のうち、下側の項目、照明器具のＬＥＤ化というところでございますが、計画的なＬＥＤ化を以前より継続しており、支出で説明いたしましたとおり、諸経費のうち光熱水費の抑制がなされたことを確認しております。

同じページの一番下の欄になりますが、２の施設管理能力の「（４）従業員の能力向上」につきましては、職員を計画的・継続的に育成するという市の基準を上回る提案があり、手話講習の受講等を確認しております。

次の２０ページをお願いいたします。「（２）施設の維持管理業務」のエのその他のところになるのですけれども、駐車場・駐輪場管理業務実施について、穴川コミュニティセンターは区役所と共通の駐車場・駐輪場を使用しておりまして、管理業務は区役所が実施しているのですけれども、特に自転車の駐輪につきましてマナーが乱れていることがございまして、駐輪場・駐輪場の適正な利用について意識づけを行うという提案がなされており、ポスターの掲示や声がけなどを継続しており、提案の実施を確認しているところでございます。

２１ページをお願いいたします。左下側の項目の（１）の幅広い施設利用の確保のうち（４）で利用者への支援のうち、耳が不自由な人への対応ということで、５項目めでございます。先ほど職員の育成のところでもお話をさせていただきましたが、職員の手話講習受講を確認したところでございます。また、同じページの一番左の項目が「（３）施設における事業の実施について」になりますが、通常の利用者の妨げにならない配慮ということで、下から２番目の項目でございますけれども、稼働率の低い時間帯や稼働率が低い調理室を活用して事業を実施するなど、稼働率アップを図る自主事業の実施がされていることを確認しております。

次でございますが、今申し上げた項目の下に、青少年健全育成・高齢者・障害者福祉・市民意識醸成などをテーマとしての事業ですが、昨年度の委員会意見にございます健常者と障害者が一体となり楽しめる自主事業の確実な実施に応えようとするものとして、パラスポーツでありますボッチャの体験会を開催しております。

同じページの５、その他提案事項の「（３）障害者雇用の確保」ということになりますが、一番下のところの下から四つ目の項目です。２８年度に特別支援学校の卒業生１名を雇用し、引き続き勤務していることを確認しております。

それでは、年次評価シートの説明に戻らせていただきます。

４－１の１５ページをお願いいたします。「（４）市民局指定管理者選定評価委員会稲毛区役所部会意見を踏まえた対応」についてですが、平成３０年度に稲毛区役所部会でいただいた意見に対する対応のうち、１点が、指定管理者の財務状況に関する一般には公開されない法人情報を含んでおりまして、千葉市情報公開条例第７条３号に該当する不開示

情報となります。本日、傍聴人様がおられますことから、該当部分は今年度の財務状況にもかかわってまいりますので、後に非公開の議事の際に説明させていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○中臺地域づくり支援室長　　では、こちらに該当しない部分のご説明のみ、まず、させていただきたいと存じます。

「３０年度事業で計画されている健常者と障害者が一体となり楽しめる自主事業三つを確実に実施すること」という２９年度の意見に対しまして、対応でございますが、障害者と健常者が一体となって楽しめるボッチャ競技交流会を指定管理者であります京葉美装が指定管理者となっているほかの区の四つのコミュニティセンター合同の自主事業として、穴川コミュニティセンターを会場として開催いたしまして、障害のある方と健常者、若い方から高齢の方まで合わせて６０人が参加したとのことでございます。

続きまして、６番の「利用者ニーズ・満足度の把握」の「（１）指定管理者が行ったアンケート調査」の結果でございますが、調査方法、回答者数、質問項目及び結果については、ご覧のとおりでございます。

調査の概要といたしましては、８月は性別、予約方法、穴川コミュニティセンターを選んだ理由等の穴川コミュニティセンター独自項目を加えて実施いたしました。１月は全コミュニティセンター同一で、コミュニティセンターの満足度を調査しましたが、各項目について全体的に「不満足」、「非常に不満足」の回答は少なく、利用者の皆様におおむね満足いただいていると理解しております。

１７ページ下の項目をご覧ください。「（２）市指定管理者に寄せられた主な意見、苦情と対応」については、記載のとおりでございます。エアコンの効きが悪いということで、空調のほうを工事させていただいたのが一番ここでは大きなところになるかと思います。

１８ページをお願いいたします。「７　総括」についてご説明します。まず、「１　指定管理者による自己評価」は「Ｃ」で、所見としてハード面の施設管理においては館内照明のＬＥＤ化を昨年に引き続き実施し、電気料金の削減に務めたこと、ソフト面の運営管理においては、快適に利用していただくために備品や書籍の無料貸し出しを行ったこと、自主事業においては利用者のニーズに応え、当初計画以上の事業を実施したことなどを挙げております。

（２）の市による評価は、１３ページから１４ページに記載がございます５の管理運営状況の評価において「Ｂ」評価が１項目、「Ｃ」評価が９項目でありましたことから、「Ｃ」より上がるという判断には至りませんで、１８ページの点線で囲まれた評価の内容で、の「おおむね市が指定管理者に望む水準に即した良好な管理運営が行われていた」といたしました。また所見として、修繕、清掃等が適正に実施され、特に修繕に関しては施設利用者の利便性を第一に考え、迅速な対応がなされていること、ホームページやフェイスブックなどを用いたり、地元マスコミに記事掲載の協力を依頼し、地道な広報にも努めていることを評価しております。

穴川コミュニティセンターの指定管理者評価シートの説明につきましては、以上でございます。

○稲垣部会長　　ありがとうございました。

ただいまの説明に対して何かご質問とか、ご意見とかがございましたら、どうぞ。
○長根委員　　質問が２点ございまして、資料の１２（１）のところで、収支状況を見てみると、利用料金収入の減少の理由として、利用団体の大幅な減少による収入減になっておりましたけれども、大幅な減少というのは、どういうことでしょうか。あまり急に減少することというのは少ないというような気がしますが。
○中臺地域づくり支援室長　　減少した中でも特に多目的室が１コマ当たりの料金が一番高いのですけれども、多目的室の利用というのが、例えば、講座とか、そういったものを行ったりとかするものが多くございまして、１コマ２時間ですけれども、２時間でおさまらないような複数のコマを使用する行事を行うパターンが多い中で、一番単価の高いこの多目的室が使われなくなったことが、ほかの部屋が使われなかったことよりも影響が大きかったということを表現しているものでございます。
○長根委員　　わかりました。
あと、１４ページの（３）の「３　施設の効用の発揮」のところで、ホームページやフェイスブック等の広報を使って、これ努力しているなと思ったのですけれども、フェイスブックというのは主に中高年が使用するＳＮＳツールですよね。利用者も大体高齢者の方が多いので、合っているのかもしれないですが、若い方に発信するのであればツイッターとかのほうが、若年層というのですか、若い方が見るので、若い方でフェイスブックを使っているというのも結構少なくなっているので、ツイッターの活用もお考えになったほうが、若い層にも周知できるのではないかなと思いました。
○中臺地域づくり支援室長　　おっしゃるとおりだと思いますので、その点につきましては、委員会からの参考意見としてお伝えさせていただきたいと思っております。
○稲垣部会長　　質問で、ただいまの多目的室の中で、わかったらお答えいただきたいと思いますが、できれば、例えば、去年、これだけあったのが、これだけ減ったとか、２９年に比べて３０年は何件とか、データはお持ちですか。
○中臺地域づくり支援室長　　例えば、多目的室の使用許可件数でいいますと、２９年度が１，２６９件、３０年度が１，１７４件で、おおむね１００件程度減っているのですが、仮に２コマの予約が平均的なものといたしますと、１コマが１，６８０円になりますので、約３，３００円掛ける１００ということで３０万円程度減少しているような形になります。
○稲垣部会長　　それだけでは、例えば原因というか、例えばこういう要因で減っているとか、内容がわからないので、ただ減ったというだけなのか、こういう要因で減ったとかという当事者の説明とかはありますか。
○中臺地域づくり支援室長　　利用者層に関しましては、特に把握していなかったようですので、多目的室の利用がこのように減少しているという報告のみを把握しております。
○稲垣部会長　　さっきのお話だと、講座とか、そういうのが多いわけですか。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。いわゆる学校の体育館のようなつくりになっているのですが、スポーツで使うものではなく、例えば、我々も使わせていただくのですけれども、何かの総会とか、そういったもので使ったりとか、大勢を集めて講座をやったりとか、そういったイメージの使われ方が多い施設です。あと、もう一つはダンスサークルとかが使うようなものですけれども。
○稲垣部会長　　その需要が減っているということなのですか、たまたまというのではな

くて、傾向として減る方向に行っているのか、それが知りたいなと思ったものですから。
○中臺地域づくり支援室長　　ここの情報ではないのですけれども、後でご説明させていただく長沼のほうもダンスサークルの利用も減っているというようなお話も伺っておりまして、もしかすると、同様の傾向があるのかもしれません。
○稲垣部会長　　傾向的なものなのか。
○中臺地域づくり支援室長　　傾向的なものはあるのかもしれないです。
○稲垣部会長　　わかりました。
　ほかに何かご質問は。
　どうぞ。
○藤沼委員　　何点かお聞きしたい。数値目標、稼働率の数値目標がありますよね。今後の参考にできればと思うのですけれども、今、受付で全部集計できますよね、日報が、具体的には。そうすると、曜日を含めて時間帯で、どこの部屋が使われている、使われていないというのは集計できますよね。
○中臺地域づくり支援室長　　今手元にはございませんが、資料としては存在します。
○藤沼委員　　いいのですけれども、そういうところが出ることによって、どういうふうなサービスができるのか、稼働率の低い時間帯に減額サービスができるのか、あるいは、どういうふうに減っているのか、そこはもうそもそも時間帯として常に空き状態なっているのかというような。
○中臺地域づくり支援室長　　利用料金の設定を工夫することで、死に体にしない手法も十分にあり得ると思います。
○藤沼委員　　アンケートをずっと見ていくと、そこら辺が細かい状況が見えてこない。そうすると、では、それに対して、どういう、空き時間を使った自主事業をしているということは書いてあるのだけれども、それが全体でというところもわからない。
　もう一つは、外国人の就労の仕方が変わりましたよね。それは外国人がふえているという傾向になるだろうと。そうすると、稲毛区として、どのぐらいの登録人口があって、そういう人たちにどんなサービスを地域コミュニティとしてやっていくのかというのが、今後の一つの課題になってくるのかと。この直接の評価とは違うけれども、そういうところを今後に向けて知りたいと思いますので、検討しておいてください。
○中臺地域づくり支援室長　　こちらは今後の検討ということでよろしいでしょうか。今の回答ということではなく。
○藤沼委員　　結構です。
　それと、もう一つ、コミュニティーまつりの参加人数だけれども、２万４千人は、１日で２万４千人ですか。
○中臺地域づくり支援室長　　１日で２万４千人です。
○藤沼委員　　長沼は２千人ちょっとだけれども、これは平均的にほかの館もこのぐらい来ているの。
○中臺地域づくり支援室長　　施設ごとに集計方法が違います。
○藤沼委員　　これは時間でとっているの。
○中臺地域づくり支援室長　　飽和状態で集計するか、積み上げで集計するかの差が出ているかと思いますので。

○藤沼委員　　ちょっと、館に２万４千人というと、入らないはずなので。
○中臺地域づくり支援室長　　外にもテントを張ってお店を出したりとか、あと、それにあわせて、我々も区役所側でもイベントをやらせていただいたりとかしていますので、長沼と比べると、かなり集客がしやすい状況であることは確かです。
○藤沼委員　　わかりました。
（３）の収支の状況ですが、２９年、３０年と赤字ベースになっている。これは２８年からやり始めて、ずっと赤字ですか。
○中臺地域づくり支援室長　　２９年度から赤字になっております。
○藤沼委員　　２８年度までは、どんなような。
○中臺地域づくり支援室長　　２８年度までは黒字です。
○藤沼委員　　広がっているのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　こちらのほうは、赤字が広がった原因として、最低賃金の上昇と、それから、ワークライフバランスということで、非常勤の方に関しましても有給休暇の取得を促進している中で､館の美化とか管理状態を落とさないようにということで、平均的な勤務の頭数を落とさずに、休ませたりとかしているというところが影響しているようでございます。
○藤沼委員　　人件費と人事管理の観点において、この赤字が発生しているということですか。
○中臺地域づくり支援室長　　人件費が一番圧迫しているとのことでございます。
○藤沼委員　　そうすると、３１年度もそのような傾向にあるということですか。
○中臺地域づくり支援室長　　一度雇用した者を解雇するというのは、非常に難しい状況がございまして、我々の要望に応じて、障害のある方の雇用等をやっていただいているのですけれども、ただ、それに関しましては、誰かがやめたからその分の補充として雇用したのではなく、純粋に追加の人員として雇用しているという状況でございます。また、美化のためにも、当初想定していたよりも多い清掃員の数を配置している中で、最低賃金が上がっていった上に、ワークライフバランスの確保ということで、有給休暇をとっていただいているということで、上がる要素はあるのですけれども、今後、下がっていく要素というのがなかなか人件費に関してはないものですから、そこをどうにか他の経費の削減でカバーして、赤字幅を少なくしようと努力しているという状況ではございます。
○藤沼委員　　人件費でというのは２９年度から３０年度は､自主事業だけの分でいくと、自主事業以外でふえているということになりますか。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。本来業務のほうで増加しています。
○藤沼委員　　人件費がふえているということ。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○藤沼委員　　わかりました。
どうするのですか、１００万近くの赤字、昨年出て、今年度も数学的に考えれば赤字出るよね。会社持ちになっちゃうの。
○中臺地域づくり支援室長　　指定管理者の負担になります。もともと赤字が出た場合には市が補填するような契約になっておりませんので。
○藤沼委員　　最後なのですけれども、１６ページの「（４）３０年度事業」で、三つを

確実にやってくださいよということを意見として、提示してありますが、このまとめ方だと、一つの事業は合同でやったというイメージですけれども、ほかの２事業はやられたのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　いえ、ほかの２事業はやられておりません。
○藤沼委員　　それは何でできなかったのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　企画立案が間に合わなかったということでございます。ですので､年度末の３月３１日にボッチャ体験会をやっているということでございますので。
○藤沼委員　　２９年度もできなかったのではなかったのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　はい、２９年度は全部できませんでした。
○藤沼委員　　ゼロだったよね。それで事業計画をつくって出して、一つはやったわけだけれども、二つはできなかったというのは、何を考えて企画しているのかな。その理由は何なの。
○中臺地域づくり支援室長　　年度当初から、指定管理者側としては、いろいろ考えて何をしたらいいかということで、相当悩んでいたようなのですけれども、結果として、そういったことで、なかなか企画が決まらずに、一つしかできなかったという状況でございます。
○藤沼委員　　３１年度は。
○中臺地域づくり支援室長　　３１年度は、恐らく今回やったボッチャが成功しておりまして、同種のもので集客が見込めるということがわかりましたので、継続するのではないかと思います。
○稲垣部会長　　４の４館共同って何なの。
○中臺地域づくり支援室長　　京葉美装が指定管理者をしている４館です。
○稲垣部会長　　同じ指定管理者がやっている４館。
○中臺地域づくり支援室長　　その４館です。
○稲垣部会長　　今の赤字が出たお話の関連ですが､赤字の原因を書いて解消策を検討し、これで来年は赤字を解消する方向になる、解消できないまでもこうしたいとか、そういうふうな意見というのはないのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　指定管理者には我々の公的な部門の一部を担っていただいているということで、簡単に雇用を切るというような考えは持ち合わせていないようでございます。他の経費の削減と、あと、もう一つは、会社自体が黒字経営になっているということもございまして、自分たちがここを引き受けたということで、赤字を飲み込む覚悟でおりますというようなお話はいただいております。ただし、今の計画と現実にずれが出てきているので、次の提案時にここを修正させていただきたいというような考えのようです。
○稲垣部会長　　この受けた５年間は何とかやりますよというだけですか。
○中臺地域づくり支援室長　　５年間は現状の雇用を維持して、経費をなるべく削減する中で、黒字化というのは、今の人数を雇用していたのではなかなか難しい部分はあるという認識はあるのですけれども、そういった中で、会社トータルで見た場合には、黒字経営の中で飲み込める範囲の赤字額であるということのようです。
○稲垣部会長　　自主事業も赤字ですよね。

○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○稲垣部会長　　自主事業だから赤字でいいという発想ではないですよね。何でもただでやれば、人は来ますけれども、結局、物事は一定の利用価値があってここに来るわけですよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○稲垣部会長　　だから、やっぱり適正な投資をすべきであり、相当の料金を徴収しても成り立つような自主事業を考えていただく必要があるのではないかと思うのですけれども。無料でやって稼働率が上がっても意味がない。意味がないというのは言い過ぎですけれども、何か適正な利用料をとれるような、魅力ある自主事業というのを、そういう方向の考えはないのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　指定管理者側としても、このままでいいという考えはないのですけれども、今やっているのは、プロモーション事業、広告費用的な考え方で支出しているというような考えでございます。
○印南委員　　京葉美装さんは、結構、共催していますよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。いろいろやっています。
○印南委員　　いろいろなところに。したがって収入に入っているのですよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○印南委員　だから、本当はそれがなかったとしたら、こんな赤字もっと大きいのですよね。そんな感じですよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○稲垣部会長　　さっきの大口利用の減少が非常に大きな問題だと思うのですよね。自主事業でちょっと、５０円、１００円の料金を取っても大きな収入にはならないと思うのです。結局、なぜ大口利用が減ってきているのか、あるいは、たまたま一過性のものなのか、それらの分析が欲しいような感じがします。減っていくから仕方ないのだというのでは、まずいですね。
○中臺地域づくり支援室長　　その部分につきましては、分析して対策を立てるように指導していきたいと思います。
○印南委員　　余り関係ないですけれども、１４ページ目、自己評価と市の評価があるでしょう。あのあたり、自己評価のところが「Ｂ」がいっぱいあるのですけれども、ここは何かあるのですかね。
○中臺地域づくり支援室長　　特にビルメンテの会社というところの自負がございまして、一番上の平等利用のところでも、ビルメンテ会社としてリスク管理が高いレベルでできている自負があるとか、あと、施設の維持管理業務、ここが一番得意分野と自社で考えているところになるのですけれども、これがきちんとできているということです。
　それから、利用者サービスの充実におきましても、例えば、利用者さんへの物品の貸し出しとかも、どんどん充実させていっているので、自分たちとしてはよくやっているというような考えを持っているということです。あと、施設内における事業の実施のところで稼働率を向上させるために、絶えず自主事業の実施時刻をシフトさせているということです。
○印南委員　　ということは、市のほうのやり方だと、「Ｃ」に全部偏っちゃうような感

じになりますよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○印南委員　　どっちが正しいかわからないけれども、全部「Ｃ」に全部偏っちゃうような気がするな。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。先に提案がありきだと、評価が高くならないという評価方式になっておりますので。
○印南委員　　レベルの高い提案をしてもそのとおりに実施したらそこが「Ｃ」になっちゃいますよね。
○中臺地域づくり支援室長　　ただ、逆に提案がないと選定されないという部分もございますので、提案した以上はやってくださいということで、提案どおりに最低限できていれば、やっぱり「Ｃ」ということになってしまうのですが、指定管理者側にしてみれば、提案は高いレベルの提案をして、そのとおりにやったのだから「Ｂ」と考えているということだと思います。
○印南委員　　そうですね。いや、中には自分には甘い会社が多いのだけれども、京葉美装さんはそうではないということですね。
○中臺地域づくり支援室長　　確かにいろいろ工夫はしていただいていて、自主企画事業に関しまして、企画の内容とか、そこの収支を合わせるという部分では、ちょっとうまくいってはいないのですけれども、普通に利用者さんが快適に利用していただくための努力というのは相当されておりまして、必要な、借りたいものとか、そういったものがどんどん充実しているような状況ではございますので、気持ちの面ではわからなくもないですけれども、評価方式としては「Ｃ」とせざるを得ないという状況でございます。
○印南委員　　ありがとうございました。
○稲垣部会長　　ここはビルの管理が得意という感じですね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。ビルメンテの会社でございますので、建物管理が専門分野です。
○稲垣部会長　　そこら辺は大変よくできているなと。ただ問題は、良さというか要するにアイデアですよね。結局、アンケートというのは、来た人だけを相手にしているから、来た人が幾らいいと言ってくれても来ない人が、来るように仕向けることが必要。来ている人は、大体便利だとかいうのは当たり前なのですね。問題は、そういう人だけが１００％良いと言ったって客が増加するわけではないので、むしろ、新しい企画で時代に合わせていかないと、ただ利用者が減るのを見ているというところがあるので。だから、そこの企画力というのは、そこがどこか足りないかなというのが非常に大きいな、具体的にはね。
　ただ、役所が点数をつけるのは、確かに管理上の不安が少ないとか、そういうことがいいのだと思うのですけれども、民間委託ということは、すなわち、文句はないという、マイナス思考ではなくて、積極的にお客の喜びそうなことを思いつかないと意味がないということだと思うのですね。そこの点が何というか、ただ努力してやっていますよというのではなくて、利用者が減っていれば、今度はこうするとか、何かそういう点が欲しいなという気がします。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。同じ区内にある長沼コミュニティセンターは、企画部門と管理部門を分けて充実した企画を行っているので、違う会社とはいえ、よいお

手本があって、それがどのような事業をやっているのかは公開されていますので、どんどん参考にしてもらいたいなというふうには考えてはおります。
○稲垣部会長　　ほか、特にご意見よろしいですか。
（なし）
○稲垣部会長　　短い時間だったかもしれませんけれども、事務局にまとめていただいたご意見、特には、利用者数増加策、赤字縮減、フェイスブックとか、そういうものを利用してほしいとか、そういうご提案で。
○中臺地域づくり支援室長　　幅広い年代に呼びかけるために、広報媒体の一つとしてツイッターを追加するとか、インスタグラムを使うとか、媒体を広げたほうがいいのではないかということだと思います。
○稲垣部会長　　藤沼委員からお話で、外国人がふえてくるが、それについて取り組み、そういうことについての検討はどうかと、そういう話ですね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。そうですね。外国人がふえた場合、今、利用している方に加え、外国の方も利用していただければ、それだけ稼働率が上がるということになりますので、取り込む方策として検討するのはどうかというのは、非常にありがたい意見だと思います。
○稲垣部会長　　それと外国人については利用しやすいようなアナウンスというか、回覧板だとか、そういうものでは外国人は疎外されちゃいますよね。そういう問題もおっしゃっているのではないかと。
　それから、先ほど、コミュニティまつりの参加者２万４千人というのは何か多過ぎないかというご意見ですが、実際、空間が広いから、それぐらい来ているのだというのが事務局のお話だったように。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。我々区役所のイベントも同時開催したりとか、長沼と比べて駐車スペースの制限といったもの、地理的な要素を含めると、長沼よりは当然、集客数が多くなるものと考えておりますので。
○稲垣部会長　　それから、赤字のことは、そのままでは困るというか、赤字に対してどうしたいのかについての具体的な検討をしてほしいということで。効率のいい層がいなくて減ったというのは、どんどん減っていくのを放っておくのか、どうしたいのかですよね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。ですので、雇用を維持しつつ、経費のさらなる縮減と自主企画での収入増を図っていただくことということになるかと思うのですけれども。
○稲垣部会長　　もう一つは、障害者と一体の事業企画、それは一つしかやっていないけれども、残りはどうしたのというご指摘なのですが、企画が間に合わなかった。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○稲垣部会長　　そういう意味ではさらに頑張ってほしいという意見があった。
　短時間でまとまらないところもあると思うのですけれども、今の部分を事務局でもうちょっとまとめていただいてよろしいですかね。
○中臺地域づくり支援室長　　まず、雇用を維持しつつ、収支状況を改善する方策について検討するとともに、幅広い層を呼び込めるような工夫をお願いしたいというようなことになってくるのかと思いますけれども。お話しいただいた項目をざっとまとめてしまいますと。

○稲垣部会長　　それと、もう一つは、先ほど言った、来ている人だけにアンケートをとってもしようがない、来ていない人に届くような何かをしてほしいなと思うのですよね。来ている方は、よほどのことがないと困るものはないですよね。家が近いとか、来る理由があるわけだから。アンケートでは来ない人の意見はわからないのですよね。そこを何とかしないといけないと思うのですけれどもね。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。そこは広報の工夫とも一体になってくるものでもありますし、新たなる利用者の開拓という部分になってくるかと思いますので、雇用を維持しつつ、収支改善を図る上で、新たなる利用者の開拓も行ってほしいということもつけ加えるような形でいかがでしょうか。
○稲垣部会長　　意見をまとめるのは非常に難しいのですけれども、では、もう一回事務局と私のほうでまとめてよろしいでしょうか。

（異議なし）

○中臺地域づくり支援室長　　今の要素をコンパクトにまとめるような形でつくらせていただければと思いますので。
○稲垣部会長　　そのような形で了承していただきたいと思います。
　それでは、次の指定管理者の倒産、撤退のリスクを把握するということになります。
　これから計算書類等を基に指定管理者の財務状況等に関する意見交換を行いたいと思いますが、一部の資料は一般には公開されていない法人情報等を含んでおり、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する不開示情報となりますので、同条例第２５条ただし書の規定により、ここからの会議は非公開といたします。
　傍聴人の方は、恐れ入りますが、一度ご退出をお願いいたします。

［傍聴人　退室］

○印南委員　　返済計画をつくって、その通りに返済していますよということであれば、特に問題ないと思うのですけれどもね。
○中臺地域づくり支援室長　　直ちに倒産及び撤退等のリスクが発生する可能性は少ないが､引き続き長期貸付金の動向には注意を要するというようなことでよろしいでしょうか。
○稲垣部会長　　では、そういう言葉でまとめていただきますので、よろしくお願いします。
（※財務状況等に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません）
○稲垣部会長　　これからの会議については、公開といたします。
　傍聴人の方がいらっしゃれば。

［傍聴人　入室］

○稲垣部会長　　それでは再開します。
　これまでの意見を踏まえて、千葉市稲毛区穴川コミュニティセンターの指定管理者の行った、施設の管理に係る年度評価について、本部会としての意見をまとめていくことになりますが、詳細については、私と事務局にて調整することでご了承いただけますでしょうか。

（異議なし）

○稲垣部会長　　ありがとうございました。

それでは次に、千葉市稲毛区長沼コミュニティセンターについて、評価を行います。事務局よりご説明をお願いします。

○中臺地域づくり支援室長　　では、引き続き、今度は長沼コミュニティセンターの平成３０年度指定管理者が行った施設に係る年度評価について、ご説明させていただきます。

資料５－１、４５２ページをお願いいたします。「１　公の施設の基本情報」ですが、施設名称から制度導入に見込まれる効果については記載のとおりでございます。成果指標といたしましては、穴川コミュニティセンターと同様に、諸室における施設稼働率及びスポーツ施設における利用者数を設定しております。数値目標についてですが、諸室の施設稼働率については、市が定めた最終年度の数値目標３８％に対し、指定管理者が提案した最終年度の数値目標は３８．１％､平成３０年度の指定管理者が設定した数値目標は３５．８％です。

２のスポーツ施設の利用者数ですが、市が定めた最終年度の数値目標１万６千人に対し指定管理者の最終年度の数値目標は１万６，１２４人、平成３０年度に指定管理者が設定した数値目標は１万５，９５６人です。

次に、「２　指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名はＦｕｎＳｐａｃｅ、オーチュー共同事業体、代表団体がＦｕｎＳｐａｃｅ株式会社と構成員の株式会社オーチューの２社による共同事業体です。指定期間は平成２８年４月１日から令和３年３月３１日までの５年間となります。

続いて、「３　管理運営の成果・実績」の「（１）成果指標に係る数値目標状況」ですが、諸室の施設稼働率の達成率は１１５．０８％、スポーツ施設の利用者数は１０３．２３％です。なお、括弧書は市の設定した最終年度の目標に対する達成率です。

次に、「（２）その他利用状況を示す指標」でございますが、成果指標として設定した項目以外で数値として施設の利用状況を示すことができる指標として、コミュニティまつりの参加者人数と幼児室利用者数を記載してございます。

４５３ページをお願いいたします。「４　収支状況」ですが、「（１）必須業務収支状況」の「ア　収入」から説明いたします。３０年度の合計の欄をご覧ください。提案の５，４２７万３千円に対し、計画は５，３０９万９千円、実績は５，３５２万４千円となっております。計画に対する実績が４２万５千円の増となった要因としては、諸室の稼働率、スポーツ施設の利用者数が目標を上回ったことによる利用料金収入の増などがございます。

次に、「イ　支出」でございますが、３０年度の合計の欄をご覧ください。提案の５，４２７万３千円に対し、計画は５，３０９万９千円、実績は５，０８４万５千円となっております。計画に対する実績が２２５万４千円の減となった要因としては、事務費の節約努力による減などがございます。ちょっとわかりづらいのですけれども、特に電気料金、電力の供給に関しまして入札を行いまして、光熱水費が減ったことが一番大きな要素であるのかと思われます。

次に、４５４ページをお願いいたします。「（２）の自主事業収支状況」をご説明いたします。自主事業につきましては、当初予定の５４件から１４件ふえまして６８件実施いたしました。収入は２０６万７千円、支出は１９０万７千円であり、収支決算額として１６万円の黒字となりました。黒字となりました要因といたしましては、地域の居場所づくりとしてコミュニティカフェを開始し、障害者就労支援施設で製造した焼菓子等をセンタ

ー内で販売したことが要因になってございます

（３）の収支状況でございますが、必須業務と自主事業を合わせた総収入は５，５５９万１千円、総支出は５，２７５万２千円であり、総収支決算額としては２８３万９千円の黒字となりました。

なお、利益の還元については５６万８千円を還元する予定で、内容については現在検討中でございます。

続いて、「５　管理運営状況の評価」をご説明いたします。まず、「（１）管理運営による成果・実績」でございますが、穴川コミュニティセンターと同様の施設稼働率、施設利用者数ともに、選定時に指定管理者が定めた年度目標に対する達成率で評価をしております。施設稼働率は１１５．０８％で、下の点線で囲まれた評価の内容におきまして、「Ｂ」に該当いたします。また、施設利用者数は１０３．２３％で、「Ｃ」に該当いたします。

４５５ページをお願いいたします。「（２）市の施設管理経費縮減への寄与」でございますが、選定時の提案額４，７２０万１千円に対し、実績額は４，６０２万７千円で、削減額は１１７万４千円、削減率は２．４９％となり、下の点線で囲まれた評価の内容におきまして、「Ｃ」に該当いたします。

次に（３）管理運営の履行状況でございますが、こちらは年度内に２回実施いたしましたモニタリングの各項目を七つの評価項目に分類し、それぞれにおいて指定管理者による自己評価、市による評価を行っております。

穴川同様、モニタリング結果のほうを後ほど説明させていただきますが、市の評価は３の（２）の利用者サービスの充実が「Ｂ」で、他の項目は「Ｃ」という評価でした。

なお、評価はページ最下部の点線で囲まれた評価の内容のとおりでございます。

各項目において評価した点は、特記事項欄に記載のとおりでございますが、モニタリングレポートのほうでポイントについてご説明をさせていただきます。

５の４６０ページをお願いいたします。一番左の項目「１　市民の平等利用の確保、施設の適正管理」の中で、「（３）環境の適正な管理」のうち、アの個人情報と書かれている部分なのですけれども、こちらにつきましては、個人情報漏えい保険への加入がなされており、保険証券を確認しているところでございます。

同じページの一番下になりますけれども、２の施設管理能力の「（４）従業員の能力向上」については、スキル・キャリアに応じた研修の実施や職員の資格取得の奨励の提案がなされておりまして、３０年度につきましては、救命講習等の実施を確認しているところでございます。

４６１ページをお願いいたします。「（２）施設の維持管理業務」の左から２番目の項目で、（５）と（６）があるのですけれども、そのうちの（６）の設備・備品の管理、清掃、警備等のところで、アの設備・備品管理では、冷房設備のない体育館での熱中症対策として、スポットクーラーの設置が提案され、現物を確認しております。

同じく（６）の設備・備品の管理、清掃、警備等の中でエのその他の施設管理の一番下の段で、駐車場・駐輪場管理業務実施について、監視カメラの設置、臨時駐車場の確保という提案がなされ、防犯のための監視カメラの設置とイベント時に周辺の大型店舗に協力を依頼し臨時駐車場を確保したことについて確認しております。

次の項目の一番左の項目が３の施設の効用の発揮のところで、「（３）利用者サービス

の向上」のサークル利用者へのサービス向上については、長沼コミュニティセンターを利用するサークル、学生ボランティア、地域住民の皆様のコミュニティセンターの運営を支援してくださる方々の組織化を図り、事業協力をしていくという提案がありまして、平成２８年度末にはＮＡＣＣＳが結成され、３０年度のメンバー表や取組内容を確認しております。

次の４６２ページをご覧ください。一番下になりますけれども、「４　その他」の「５その他の提案事項」の「（３）障害者雇用の確保」につきましては、雇用、募集ともに行っていないことを確認しておりまして、マイナス評価となっております。障害者雇用にかわる措置として、コミュニティカフェで障害者就労支援施設の製品を販売しておりますが、将来的にはこのカフェでの雇用も検討しているとのことでございますが、このことでは評価をプラスにすることはできませんので、評価としてはマイナスでございます。

近隣に立地しております千葉大学教育学部附属特別支援学校との連携事業も平成３０年度は実施しておりますことから、卒業生の採用を検討するよう引き続き指導してまいりたいと思っております。

モニタリングレポートにつきましては以上でございます。

資料５－１にお戻りいただきまして、４５６ページをお願いいたします。

「（４）市民局指定管理者選定評価委員会稲毛区部会意見を踏まえた対応」についてですが、ＮＡＣＣＳの活動について引き続き期待しているという平成２９年度の意見に対し、３０年度はメンバーの数も倍増し、強力な支援団体として引き続き自主事業の企画立案から開催支援を担っているとのことでございました。

次に、「６　利用者ニーズ・満足度の把握」についてご説明します。まず「（１）指定管理者が行ったアンケート調査」の結果についてですが、穴川コミュニティセンターと同様に、８月と１月に実施しております。８月、１月ともに各項目において「不満足」、「非常に不満足」な回答は少なく、利用者の皆様にはおおむね満足いただいていると理解しております。

また、長沼コミュニティセンター独自のアンケートとして、１月はふだん同センターを利用しない方々が来所する「みんなで☆あそぼうさい」というイベントで独自アンケートを行いまして、２月は近隣の同種施設、長沼原勤労市民プラザの招福祭におきまして、１月、２月と同じアンケートなのですけれども、未利用者アンケートを実施し、「どのような取り組みがあれば長沼コミュニティセンターを使用したいか」などについて調査をしております。調査結果は４５８ページに記載のとおりです。

４５９ページをお願いします。「（２）市、指定管理者に寄せられた主な意見、苦情と対応」ですが、事案のうち、清掃スタッフの勤務態度に関するものでございますが、特定のスタッフが利用者とトラブルになったものであり、所長の指導により勤務態度を改めたとのことで、以降苦情はございません。

「７　総括」についてご説明します。まず「（１）指定管理者による自己評価」は「Ｃ」となっております。利用料金収入、諸室稼働率、体育館利用ニーズが目標を上回ったこと、広報の強化により夜間稼働率の増加につながったこと、コミュニティカフェや千葉大学教育学部附属特別支援学校が企画の中心となったパラスポーツ体験会の実施などにより、地域団体などとの連携を図ったことを所見として挙げております。

（２）の市による評価ですが、４５４ページから４５５ページの５の管理運営状況の評価において、市の評価に「Ｄ」及び「Ｅ」がないことから、総括評価は「Ｃ」といたしました。これはおおむね市が指定管理者に求める水準等に即した良好な管理運営が行われていたという評価でございます。また、所見として、未利用者アンケートの実施やコミュカフェの開始、ＮＡＣＣＳの事業協力などを挙げております。

長沼コミュニティセンターの指定管理者評価シートの説明につきましては以上でございます。

○稲垣部会長　　ありがとうございます。

ただいま、所管から一通りご説明いただき、長沼コミュニティセンターの年度評価につきまして「評価案」が示されましたが、まずはじめに、市当局が作成した評価の妥当性について、及び指定管理者の施設サービスの水準向上、業務効率化の方策、また、改善を要する点等について、委員の皆様からご意見をお聞きしたいと思います。ご質問がございましたら。

○長根委員　　質問なのですけれども、評価シートでいきますと、手元のものとちょっと違うのですけれども、資料５－２の障害者雇用のところなのですけれども、ここはマイナス２の評価があったと思うのですけれども、去年もたしかマイナスだったと記憶していますが。

○中臺地域づくり支援室長　　逆に、穴川コミュニティセンターは追加雇用が人件費の増につながっているのですけれども、長沼に関しましては、今の人員と業務量がバランスしており、障害者を追加雇用するすき間がないということで、かわりの措置として障害者とのかかわりを持った事業を展開していくことで、対応いただいているということでございます。

○長根委員　　穴川も長沼も仕事内容に変わりはないのに、雇用をしてきていないということは、穴川に比べて長沼のほうはアクセスもあれなので、応募してくれる人もいないのかと、そういうことかなと思っていましたが、そういうわけではなくて、人手が足りていて、追加雇用の余裕はないということなのですね。

○中臺地域づくり支援室長　　人員の管理という面で、今、雇用するすき間がないということで、無理に雇用して人件費を増加させるという考えはないということでございます。

○長根委員　　わかりました。人員と業務量がバランスしちゃっているということなのでしょうね。

○中臺地域づくり支援室長　　はい。

○長根委員　わかりました。

○印南委員　　自主事業なのですけれども、穴川のほうが収入が１３０万、長沼のほうが２００万。１年前は６０万ぐらいだったのが、１年後は１４７万と、かなり長沼のほうが自主事業の収入も多いのですね。何かあるのかな。

○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。コミュニティカフェの開始ですね。焼き菓子を障害者の就労支援施設から仕入れて、それを利用者さんが自分たちのサークル活動が終わった後とかで、皆さんでロビーでくつろぎながら、コーヒーを飲みながら食べていただける状況をつくったりしているというのが一つ大きいのではないかと思います。

○藤沼委員　　長沼は還元をかなりしているのだよね。これは去年も多分聞いたと思うの

ですけれども、全市的な状況というのは、どうなっているのですかね。
○中臺地域づくり支援室長　　２９年度は２施設だけですね。同じくＦｕｎＳｐａｃｅ、オーチューが管理しております蘇我コミュニティセンターで還元が行われております。今の指定管理期間でいいますと、２８年度もＦｕｎＳｐａｃｅ、オーチューがやっている蘇我と長沼で還元、あともう一つは鎌取コミュニティセンターが２８年度は還元がございまして、こちらは穴川と同じ京葉美装ということになります。
○藤沼委員　　そのときに、４５５ページの（２）の市の施設管理費の縮減への寄与という視点で見たときに、備品を買ったり、いろいろなことをやられたり、場合によっては現金で納付したりとかもあるのだよね、実態上ね。
○中臺地域づくり支援室長　　はい。
○藤沼委員　　そうすると、ここの選定時の提案に対しての寄与として、本来であれば備品は市が購入するものであって、それをかわりに買っていただいたり、何か改善しているわけで、それは削減のところに加算するということはできないのですかね。
○中臺地域づくり支援室長　　今の仕組みはストレートに指定管理委託料の額を書くことになっておりますので、その部分を評価に加算できないような状況でございます。
○藤沼委員　　だから、やはり、それらの自主事業をやって、黒字化して、収入を上げて、そして全体としてカウントしているわけだよね。
○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。
○藤沼委員　　そういう評価がこぼれていくというのは、やっぱり、やる側の意識として評価してあげる必要があるのかな。
○中臺地域づくり支援室長　　ここを大きく還元することに対して評価するシステムというのは、当然あったほうがよろしいかとは思います。
○藤沼委員　　今後、検討してください。
○稲垣部会長　　さっきの自主事業、無料とかはマイナスでしようがないというか、結局、お金を稼ぐことに対して評価部分が余りないのですよね。お金を稼ぐって、公的部門は無視している傾向があるのだけれども、でも、お金を払って来るというのは、それだけの効用があるということですね。ただなら来るのだけれども、お金を払っても来るという企画がいいということですよね、逆に言えば。お金を払う人が多いということは、その分、評価を高くしてもいいような感じはしますけれどもね。
○中臺地域づくり支援室長　　おっしゃるとおり、民間にやらせる意味は、そこにあるのではないかなという部分もございます。どちらかというと、指定管理料の削減とか、我々もコストダウンのほうを高く評価しているのですけれども、コミュニティセンターが稼げる施設であるということがわかれば、次の選定時も競争が激しくなる可能性もあり、いい循環になっていくのではないかなというふうに思われますので。
○藤沼委員　　最後に、４５８ページのアンケートの中で、どのような取り組みがあれば利用したいかという中で、興味を持てそうなイベント・講座の開催となると、６３％あって、どちらかというと、自主事業的な性格なのだよね。サークルの創設とか何かというのは、これは登録して、それぞれの利用者がサークルをつくって活動していくという話と、６３％というのは、どちらかといえば、自主事業的なことを期待しているということも考えられるよね。

○中臺地域づくり支援室長　　そうですね。アンケートの回答は、自主事業の部分に対するものだと思います。
○藤沼委員　　長沼は高く評価して、引き続き健全な経営に努めていただければいいのかな。やはり、それには評価のほうも手厚くしてあげるほうがいいと思います。
○稲垣部会長　　今、藤沼委員が言っていることなのですけれど、時代が変わってきて、サークルとか何かで、入ったら出られないみたいなことをずっとやるというのは、時代になんとなく合わないですよね。なぜなら、イベントに行ってちょっと楽しむのは、みんな、つまらなければ外に出ればいい。ロビーのコンサートとかも聞いていておもしろくなければ、いつでも出られる。けれども、わざわざサークルとか何かに入っちゃったら出られないというか、あるいは、サークルに入ったらずっとやらなきゃいけない、そこが面倒。
　昔は専業主婦の習いごとが公民館でできたと思うのだけれども、今はそういう時代ではなくて、皆が働きに行っていると。だから、結局、ちょっと入ったときに、ちょっと楽しみたい人が多くなって、コト消費と言っても。何かに入って１年やりましょうというよりは、買い物中にちょっと、３０分お茶わんをひねったら、帰るころには焼けていますよとか、そのような程度のものが今ははやりと言ってはおかしいけれどもそうなのでしょうね。
　それはなぜかというと、専業主婦はいなくて、みんなが働いていますので、そんなに年間とか毎週サークルで集まってとか、そんなに暇な人はめったにいないのですよ。だから、気軽にちょっと参加する。そこでちょっと何かやらせてもらうのは楽しいのだけれども、名前を書いたら週１回来なきゃいけないって、そのようなのは嫌だという人ばかりだと思うのですよ、今は。だから、そういう視点で企画していったらいいのではないかなと思うのですけれども。
　昔ながらの料理教室だとか何だかが、このようなのに登録する人はいるかなという感じがするのですよね。ちょっと集まって、そこでソバ打ちをちょっと体験するとか、そういうのはいいのだけれども、料理教室で１年やりましょうといったら、誰も来ないのではないかというか、時代が変わっているのではないかなというのが基本的な考えなのです。
○藤沼委員　　すみません、一つだけ教えてほしい、夜間稼働率が上がった要因は何なのですか。
○中臺地域づくり支援室長　　夜間稼働率が５時から９時の区分になるのですけれども、こちらはＰＲによって企業の会議とか、そういったものがふえて、会議室の稼働率が上がったりとかということがあるらしいのですね。大体５時から９時の区分の稼働率が２１％前後で推移していたものが２９％前後まで上がったということで、５分の１しか使われていなかったものが約３分の１使われるようになったというような状況でございます。
○藤沼委員　　わかりました。
○稲垣部会長　　これは周辺の事業所がふえたということですかね。
○中臺地域づくり支援室長　　もともと事業所自体は長沼近辺はかなり工場とかあるのですね。近隣に市の経済農政局が所管している長沼原勤労市民プラザというのがあるのですけれども、そちらのほうが会社が使う場合にはメインになっていたのですけれども、同じＦｕｎＳｐａｃｅ、オーチューがやっているものですから、うまくＰＲしていただいたようです、会社に対して。
○稲垣部会長　　そういう企業の利用も大きいですね。

それから、ちょっと質問したいと思ったのですが、４６０ページの個人情報の保護があるではないですか。ここで言うと、保険に入ったことで、１点という意味は、民間としたら、確かに損害がないよう保険で払っておいたら民間の経営としてはいいと思うのだけれども、公営のこちらのほうとしては、個人情報が漏れたら保険さえ払えばいいのだろうというものではないように思うので、これは何で加点になるのか、よくわからないのと思って。

○中臺地域づくり支援室長　　これは提案があって、そのとおりにやったという評価手法の問題もあるのですけれども、我々といたしましても、長沼コミュニティセンターから個人情報が漏れるということは、公の施設から個人情報が漏れてしまったということになりますので、それを防止するための意識が高いということです。

○稲垣部会長　　保険に入っているから高いだろうという。

○中臺地域づくり支援室長　　保険加入に加え、本社の内部監査を実施ということで、個人情報の管理状況に関して本社から内部監査を行っているということがございまして、ここら辺も個人情報に対する意識が高いというふうに評価をしているところでございます。

○稲垣部会長　　保険だけではなくて、監査もしているから、よくやっているねと。

○中臺地域づくり支援室長　　そうです。

○稲垣部会長　　わかりました。

何かご質問、ご意見、よろしいですか。全体によくやっているということですけれども、そういう印象についてはよろしいですかね。

評価はでも「Ｃ」だということで、これは点数の計算でこうなってしまうということでね。

○中臺地域づくり支援室長　　はい。評価の仕組み上、こうなってしまいますが。

○稲垣部会長　　この評価自体は、よろしいですね。特にこうしたらどうかというご意見は、さっきの藤沼委員からもイベント企画の希望者が多い、そういうことが一つと、ほかは何かありますか。

障害者の雇用は、そのままになっているということなので改善してほしいということ。それから、自主事業はよくやっている点を評価するという、意見ではなくて、評価したいということですかね。委員として自主事業をよくやっているというのを評価したいということ、イベント関係の希望が多いのだから、努力してほしいということですね。

○中臺地域づくり支援室長　　アンケート結果を利用者増に結びつけるような企画をお願いしたいというご意見でよろしいかと思います。

○稲垣部会長　　それでお願いします。ほかにもしご意見があったらおっしゃっていただければと思いますが、事務局と私とでまとめるということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○稲垣部会長　　ありがとうございました。

では、以上を本部会の意見といたします。

次に、年度評価では指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握することになっています。

これから計算書類を基に指定管理者の財務状況等に関する意見交換を行うことになりますが、一部の資料は一般には公開されていない法人等情報を含んでおり、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する不開示情報となりますので、同条例第２５条ただし書の規

定により、ここからは会議は非公開といたします。

［傍聴人　退室］

○稲垣部会長　　それでは、公認会計士である印南委員から、指定管理者の財務状況等に関して、「計算書類等」を基にご意見をいただきたいと思います。

○印南委員　　オーチューという会社は大きな会社ですね。この会社は無借金の会社です。全く借入金がない。利益もたくさん出しています。もう一つの会社のＦｕｎＳｐａｃｅは利益はずっと出しているようですので、指定管理期間中に何かあるかということではないですね。

○稲垣部会長　　両方とも問題はないですね。

（※財務状況等に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません）

○稲垣部会長　　ありがとうございました。

それでは、これからの会議については、公開といたします。

［傍聴人　入室］

○稲垣部会長　　それでは、これまでの意見を踏まえて、千葉市稲毛区長沼コミュニティセンターの指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価についての本部会としての意見をまとめていくことになりますが、詳細については、私と事務局にて調整するということでご承認いただければと思います。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○稲垣部会長　ありがとうございました。

以上で、平成３０年度に指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価についての審議は終了します。

最後に、議題３の「その他」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局職員　　それでは、今後の予定について、ご説明させていただきます。

本日、委員の皆様よりいただきましたご意見等につきましては、稲垣部会長様のほうから選定評価委員会の小野寺会長さんのほうにご報告をいただき、その後、小野寺会長さんから市長宛に委員会の意見として答申をしていただくことになります。

この委員会の答申を受けまして、市は、委員会のご意見を「指定管理者評価シート」に記載しまして、９月の上旬までに市のホームページに掲載し、公表するとともに、指定管理者のほうに通知いたします。

同様に、部会の会議録及び委員会会長からの答申につきましても、同じく市ホームページにて公表することになります。公表の時期が決まり次第、委員の皆様には適宜ご報告をさせていただきます。

なお、本日の部会の会議録につきましては、後日、委員の皆様にご確認をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○稲垣部会長　　今のことについて何か質問とかございましたら。いいですか。

（なし）

○稲垣部会長　　ありがとうございました。

では、皆様方のご協力によりまして、本日の議事は、すべて終了いたしました。ありが

とうございました。
　それでは、事務局にお返しします。
○事務局職員　　慎重なご審議、ありがとうございました。例年、ちょっと長くなってしまうのですけれども、本当にありがとうございます。
　以上をもちまして、令和元年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第１回稲毛区役所部会を閉会いたします。
　委員の皆様、本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。